

二十三回生 佐怒賀（片山） 弘子

どんぐりをひとつふたつと拾いますこうしてわれは人を忘れず

うっかりとこの世にまぎれこんでいるメンダゴなぞに両耳たてる

刺すようなエキヒヨウの眼光ゆ出られずに相向かいおり園に夕映え

空仰ぐ背番号5 十二歳ゴール外しし一瞬の悔い

ツツドリの鳴く六甲山の教会にひかりをはじく甥の婚なる

こんなに冷えし世界に触れて朝顔は殖やしつづける楢円の種を

ぬすびと萩にみっしり秋の陽のたまりわたしは鍼に出かけてきます

思いもよらない自然の恐怖を目の当たりにして心象詠が多くなってきました。

注・メンダゴ 耳のような角をもち深海にすむタコの種類、今や水族館の人気者